

デジタル音声放送受信機

加藤博明* 辻下雅啓**
武田益幸* 檜枝護重***
田浦賢一**

移動受信への適用

- ・耐マルチパス性
- ・単一周波数
- ・ネットワーク

音楽の高品位化

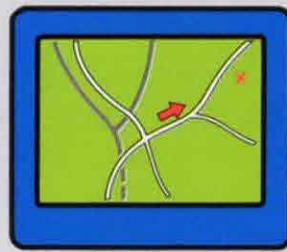
- ・CD並み音質
- ・放送局数増大

マルチメディア化

- ・ページング
- ・カラオケ、静止画
- ・交通情報、経路誘導
- ・ニュース、天気予報

機能・操作性向上

- ・自動選曲
- ・音楽ジャンル別選曲



デジタル音声放送

デジタル音声放送(DAB)は移動体受信でもCD並みの音質を確保できるばかりでなく、天候や交通情報、さらにはページング等の情報サービスも可能である。

CD(Compact Disc)、さらにはMD(Mini Disc)が市場に投入され、その優れた特性と使いやすさが市場に受け入れられたことにより、パッケージメディアのデジタル化が急速に進展している。このような背景の下、音声放送のデジタル化に向けての動きが活発になっている。

DAB(Digital Audio Broadcasting)は、移動体受信でも聴取者にCD並みの音質を提供することのできるデジタル音声放送システムであり、欧州ユーレカプロジェクトを中心に開発が進められた。このシステムは、高能率音声符号化方式とマルチキャリアによるデジタル変調方式の採用により、1.5MHzの伝送帯域幅で高音質のステレオ6

番組とデータ放送を可能としている。

現在本放送が実施されているのはイギリスのみであるが、ドイツを含む欧州各国で試験放送が実施されており、1997年秋までに本放送への移行が計画されている。

三菱電機㈱でも、DAB放送受信機の製品化に向けて開発を進めている。専用チューナーの開発、及びOFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplex)信号の復調において性能を大きく左右する同期処理の最適化により、高性能と小型化の両立を図っている。'95年11月にはドイツにおいてフィールド試験を実施し、受信感度及びマルチパス環境下での受信動作等についての検証を実施した。